

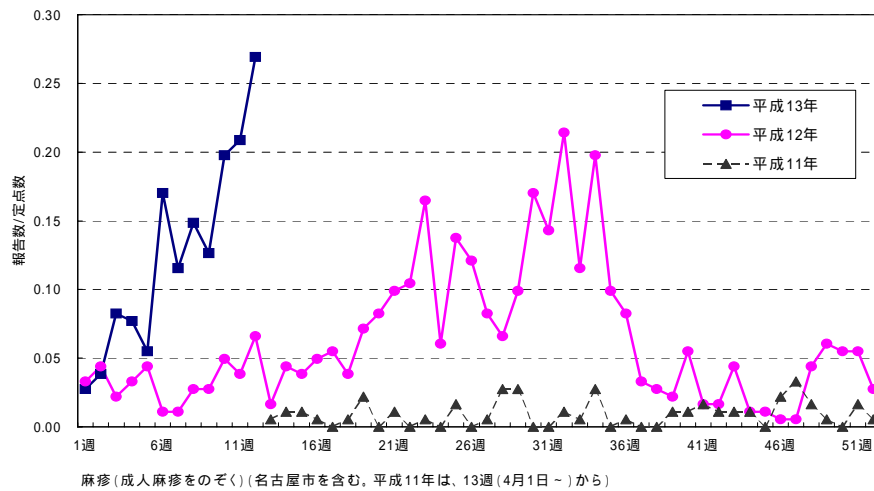
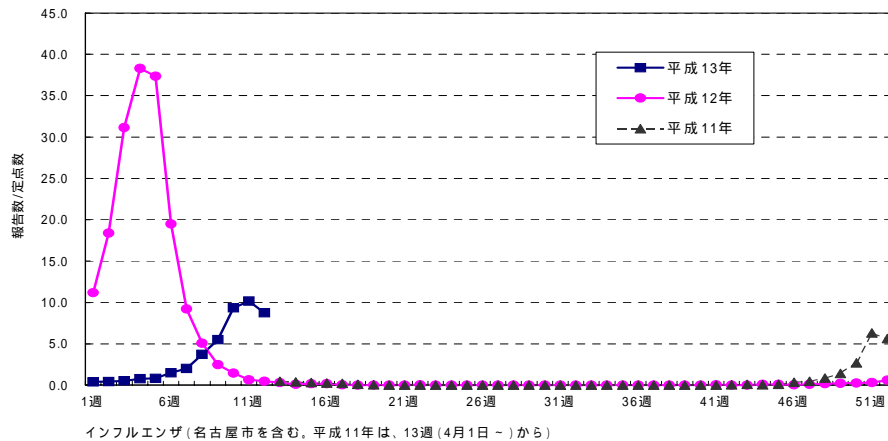
愛知県感染症情報

平成 13 年第 12 週（3 月第 3 週）

（コメント）

インフルエンザは、ピークは過ぎたようですが、依然流行しています。

咽頭結膜熱、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎、麻疹は、報告数の多い状況が続いています。



（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ インフルエンザ 男 11 名（4～10 歳 10 名）、女 7 名（2～6 歳 6 名）

病原性大腸菌検出者 5 名（0-1 10 ヶ月男、2 歳男、10 歳男、0-18 32 歳女、0-146 7 歳女）

カンピロバクター・MRSA 混合感染 13 歳男

（尾西市 城後小児科）

- ・ インフルエンザはやや下火になり、低年齢層に増えてきました。
(江南市 河野小児科)
- ・ インフルエンザ感染症は減少してきています。弛張熱の続くウイルス感染症が増加しています。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- ・ カンピロバクター1名。インフルエンザ多発。アマンタジン*無効例もかなりみられる。1クラスで両方(A、B)が流行しているもよう。ムンプス多発。
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)

注)アマンタジン*(一般名):A型インフルエンザ治療薬

- ・ 1歳男児口タウウイルス抗原(+)でした。
(春日町 丹羽医院)

● 尾張東部地区

- ・ ヘルペス性歯肉口内炎(2歳男、1歳男)
(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
- ・ ワクチン接種済でA型インフルエンザに罹患3名(内1名は1回のみ、4歳男)。シンメトレル*¹の効かない症例もあります。リレンザ*²は、成人も含めて著効。
マイコプラズマ肺炎1名(8歳女)。
(瀬戸市 津田こどもクリニック)

注)シンメトレル*¹(商品名):A型インフルエンザ治療薬。一般名はアマンタジン。

リレンザ*²(商品名):A・B型インフルエンザ治療薬

- ・ インフルエンザは、多くはありませんが、まだ小流行が続いています。今週は流行性耳下腺炎が増えました。特定の保育園等で流行がみられているようです。その他、下痢、嘔吐等散発。
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
- ・ インフルエンザ(OIA*陽性)増えてきました。
(春日井市 朝宮こどもクリニック)
- ・ Fl uA*(+)のインフルエンザAが流行しています。
ロタウイルスによる感染性胃腸炎も多く見られました。
保育園、幼稚園での咽頭結膜熱が流行しています。
(春日井市 かちがわ北病院)

注)Fl uA*:A型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。

- ・ インフルエンザ多し。
(小牧市 小牧市民病院)
- 西三河地区
 - ・ FlUA 陽性 8 例 (10 歳男、3 歳男、8 歳男、5 歳男、6 歳男、1 歳女、5 歳女、1 歳女) インフルエンザ感染 (3 歳、10 歳女 (親が FlUA (+))、34 歳 (子供が FlUA (+))、2 歳男 (姉が FlUA (+)))
 ロタウイルス陽性 1 歳男
 サルモネラ腸炎 12 歳男
 (豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
 - ・ インフルエンザ A (32 歳女、7 歳女、34 歳女、2 歳男)
 水痘もボツボツ
 (豊田市 やふそ小児科)
 - ・ ロタウイルス (1 歳男 2 人、1 歳女)
 (岡崎市 深田小児科)
 - ・ 出血性膀胱炎 3 歳男。咽頭結膜熱が小流行あり
 (岡崎市 花田こどもクリニック)
 - ・ インフルエンザ FlUA (+) (予防接種済) 5 歳女
 熱性けいれん FlUA (+) 4 歳女、2 歳女
 (岡崎市 にいのみ小児科)
 - ・ 感染性胃腸炎は、カンピロバクター (+)
 (岡崎市 川島小児科水野医院)
 - ・ インフルエンザ 10 名中 FlUA (+) 3 名 他は、臨床診断
 (岡崎市 粟屋医院)
 - ・ インフルエンザ A (10 歳男、30 歳男、34 歳男)
 38 歳女 (家族内感染)、33 歳女 (ワクチン接種済)
 (岡崎市 永坂内科医院)
 - ・ FlUA 陽性者みられますが、多くはありません。ロタウイルス感染症も時々あります。
 (碧南市 永井小児クリニック)
 - ・ 感染性胃腸炎がまだかなり認められます。
 (西尾市 山岸クリニック)
 - ・ 溶連菌感染症の母子感染 2 例あり、FlUA 陽性 3 例あり、嘔吐下痢が続いています。
 (西尾市 やすい小児科)

- 東三河地区

- ・ インフルエンザが流行しています。（B型が多いように思います。）

（豊橋市 こどもの国大谷小児科）

- ・ 統計処理をしていませんが、アマンタジン無効例が、昨年より多い印象があります。

（蒲郡市 医療法人鈴木小児科医院）

（1～3類感染症の発生状況）

報告はありませんでした。

（全数把握の4類感染症の発生状況）

レジオネラ症患者1名。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者1名。

第10週（平成13年3月5日～3月11日）の4類感染症の全国状況
流行性耳下腺炎と水痘は、過去5年の同時期と比較してかなり定点
当たり報告数が多くなっている。流行性耳下腺炎は福井県で定点当
たり報告数8.2、熊本県で5.4となっており、水痘は宮崎県で7.0、
沖縄県で5.7、山口県と大分県で4.5、静岡県で4.0と報告が多く
なっている。麻疹は例年の同時期とくらべて定点当たり報告数がかなり
多く、高知県で3.3、大分県で2.4となっている。インフルエンザは
全国平均の定点当たり報告数が9.0と先週より増加している。咽頭結
膜熱、手足口病は冬季としては例年になく定点当たり報告数が多く
なっている

（Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）